

# キャンヘルプタイランド

## ネットワーク通信

2009年7月28日発行 第46号

バンコク便り

タイ・バンコク在住の西川会長から

今年の大きなニュースの一つに新型インフルエンザの流行があげられるでしょう。

ここタイでも、大きなニュースになっているのですが、騒ぎが広がったのは、日本がパニック状態になった後、ずいぶん経ってからのことです。

日本で初めの感染者が出たころ、タイには感染者が確認されておらず、周りのタイ人に聞いても、「日本人はひ弱だから。タイ人はばい菌に強いから大丈夫」という人が多く、あまり真剣に受け止めていないようでした。私自身も彼らの説明になるほど、と妙に納得してしまい、暑い国でもあるし、そう神経質になる必要もないのではないかと高をくくっていました。

しかし、あれよあれよという間に、タイでも感染が広がり、マスクを着用する人の数もここにきて急増しました。心配なのは、死者数がかかりの数に上っていることです。日本は感染者が数千人というのに、死者が出たというニュースを記憶がないほどですが、ここタイでは7月下旬現在で30人近い死者が出ているのです。

これについて、専門家がどう考えているかは知りませんが、私たちタイに住む外国人の間では、タイ人は病院に行かないからではないか、というのがもっぱら通説になっています。

タイは日本のように健康保険制度が整備されていません。最近になって、サラリーマン向けの社会保険や、貧困者向けの一疾病30パーツ保険のような制度ができましたが、日本の国民健康保険に比べると制限が多く、万能とは言えません。病院にしても、こちらの病院はホテルかと思うような高級病院から、古びた国立病院、町の診療所まで様々です。金に糸目はつけないと言えるぐらい金銭的に余裕のある人ならば、豪華な高級病院で、先進国顔負けの先進医療を受けるのですが、そうでない人は、中級私立病院であったり、国立病院であったり、診療所であったり、予算に応じてかかる病院を選ぶ必要があります。安いのはいいけれども、国立病院で長時間待たされるのは堪ったものではないと、軽い病気なら、薬局で薬を買ってそれで済ましてしまう人もいます。

というのも、こちらの薬局では、日本では医師の処方箋がなければ買えないような薬が手軽に薬局で買えるからです。(ちなみに、私は病院で薬を処方されるとネットで成分を調べることにしているのですが、そうやって行きつくのが日本人向けの薬の個人輸入サイトで、その多くがタイ製の薬です。)

今回のインフルエンザでも、感染に気付かず、薬局で解熱剤と抗生物質か何かを買って、治そうとした人がこじらせて病院に担ぎ込まれたのではないか、あるいは薬すら飲まずに自然に治そうとした人がいたのでは、と勝手に想像しています。

保険制度の不備を、縛りの緩い調剤薬局が埋めていることに関して、私はなるほど、よくできた制度(制度ではないのですが)だと感心していたのですが、今回のようなことが起こると、だれもが手軽な料金で、手軽に通院できて、しかも外国人も簡単に加入できる日本の健康保険制度はつくづく素晴らしいと思わされるのです。

10年以上前のワークキャンプで、腕が不自由な子どもと仲良くなったことがあります。子どものときに木登りしていた時の怪我が原因だとのことだったのですが、それを聞いて、愕然とした気持ちになったと同時に、悔しさに似た感情が湧きあがったことを思い出します。病院に行かず、骨折を放置したために曲がったまま骨がくっついてしまったことが明らかだったからです。たかが骨折で、と。

あれから、10数年、保険制度もそれなりに整備が進んできて、こんな子どもにはもう会うことはないだろう、と思いたい。インフルエンザの一件から、いろんなことを考えてしまいました。

西川弘達@バンコク

## 特集記事

## ～2009年度奨学金授与式報告～

報告者：白柳 美穂

2007年に奨学金授与式に参加して以来、2度目になります。タイに行くのも2年ぶり、久しぶりの海外に、出張とはいえ子どもたちに会えるのをとても楽しみにしていました。

## 【出発日】

6月19日、中部国際空港からタイに渡航しました。午後2時前にバンコクのスワンナプーム空港に到着し、現地スタッフのムさんと合流します。8日間で11日を周る授与式ツアーです。周る順番は2年前とほぼ同じでタイの東北部（イサーン）の下の位置にあるサケーオ県に、まずは長距離バスで移動します。

夕方7時頃、サケーオのバスターミナルに着き、そこからトゥクトゥクで宿泊先まで移動しました。



【カラフルなトゥクトゥク】

気温は日本とあまり変わらず、雨季なので湿度はちょっと高めでしたが、トゥクトゥクで街中を駆け抜けると心地いい風が吹いてきて気持ちよかったです。ホテルに着き夕食を済ませた後、翌日から始まる授与式に向け、ムさんと打ち合わせです。

「明日からいよいよ第1日目！頑張ろう」とムさんと約束を交わし、就寝。

## 【授与式第1日目】

この日の朝食は私の大好きなタイのおかゆ「カオトーム」でした。生姜が入っていて体が温まります。



【ランプータンとカオトーム（タイのおかゆ）】

午前9時、授与式会場の教育委員会に到着です。すでに奨学生や学校関係者が集まっていました。馴染みのある顔もあり、嬉しくなります。今年から奨学金をもらう新規学生が多く、奨学生だけで30名ほどいました。



【サケーオの授与式会場】

午前9時、奨学金担当部長サーコンさんから挨拶とキャンヘルプタイランドについての説明がありました。

サーコンさんはもう10年も奨学金を担当しているので、このプログラムについてとてもよくわかっていて、ドナーの皆様の手紙を書くよう奨学生に伝えていました。

続いて、教育委員長ゾラさんからも挨拶があり「貧困家庭の学生に教育の機会を与えて下さってありがとうございました。短大、専門学校に進学する子どもたちも増えました。ドナー様のご支援のおかげです」とお話がありました。

挨拶が終わると、奨学生ひとりひとりに直接奨学金を手渡します。



【奨学生に直接奨学金を渡しています】

キャンヘルプタイランド（以下、キャン）は、「顔の見える支援」を大切にしているので、奨学金は送金ではなく直接支援という形を心がけています。ドナーの皆様からご寄付いただいた奨学金をひとりひとり奨学生に届けるのが私たちの活動のひとつです。奨学金を手渡す際に、ドナーの皆様を送る写真を奨学生と一緒に撮ります。

授与式が終ると、キャンを代表して私からスピーチをさせていただきました。

ドナー様からご支援いただいた奨学金を大切かつ有効的に使ってほしいこと、手紙の内容について新規学生にはドナー様へのご質問(知りたいこと10個)、継続生についてはサケーオ県で誇りに思っていることについて書いてもらうようお話ししました。今年か

ら題名をつけたのは、ドナーの方に手紙を書きたくても何を書いていいのかわからない子どもたちがいたからです。



【スピーチする白柳（中央右）現地スタッフのムさん】スピーチを終えると、サケーオ県の学生を代表して短大2年生の男の子ブンラート君から挨拶がありました。

「みんないい子になって親を手伝います。ドナーの皆様には手紙を書くことは忘れません」と真っ直ぐな瞳で少しはにかみながらも話してくれた姿が印象的でした。

授与式後、子どもたちが手作りのお土産を持ってきてくれました。

「カオラーン」といって、餅米をココナッツミルクに混ぜて竹で包んで焼く、サケーオで有名なお菓子だそうです。



【奨学生がお土産に持ってきくれたカオラーン】これがなんともいえずおいしく、日本に持って帰りたいくらいでした。

最後に全員で記念撮影をして次の目的地に向かって出発です。

プリラムに向かう途中で、昨年ワークキャンプ（以下、WC）で幼稚園を建設したサケーオのバーンローンタマシャート学校に寄りました。



【完成した校舎】

とても立派に建っていて白い校舎に青い屋根、教室の中もとてもきれいな状態でした。



【左からサーコンさん、校長先生、白柳、ムさん】見学が終わったあとは、今年のWC予定地の同県バーンタイサマキー学校に視察に行きました。

校長先生と奥様が迎えて下さいました。生徒数は158名で、幼稚園と小学生だけです。この学校は絵に力を入れていて、校舎にも絵が得意な先生たちが描いた歴史を感じる素敵な絵がたくさんあり芸術的な雰囲気です。

校長先生は夢があり、いずれは美術用の建物を造りたいそうです。そこで子どもたちが描いた絵を展示して販売したり、楽器を演奏したりする場所にしたいと目を輝かせて話して下さいました。



【絵が得意な先生が描いた校舎の絵画】

視察を終えたあとは、校長先生ご夫妻と学校の先生、運転手さんたちと昼食を食べに行きました。イサーン名物のソムタム（パパイヤサラダ）、カオマンガイ（鶏肉を蒸したもの）、豚足、タイ米などをみんなで囲っておいしくいただきました。



【校長先生ご夫妻、先生方と昼食】

車で約2時間。途中から強い雨が降ってきました。授与式に参加して雨が降ってきたのは初めてです。夕方5時頃プリラムのホテルに無事着きました。明日は午前中にプリラムで授与式を終えたあと、スリ

ンに向かう途中で横浜市立大学4年生の藤田有紀さんとスリン駅で合流することになっています。将来NGO 職員を目指す藤田さんは今回勉強のため授与式に同行されることになりました。スリン県で滞在しているため、スリン県の授与式からの参加になります。授与式前から風邪をひいているムさんの体調もあまり良くなく、明日は過去の奨学生で現在ウボンラチャターニの大学に通うペンちゃんが手伝いに来てくれます。ムさんの風邪が一日でも早く良くなりますように！

### 【授与式2日目】

午前9時、プリラム県の教育委員会で授与式が行われました。流れは前日とほぼ同じです。プリラムでの授与式を終えた後は、象で有名なスリン県に向かいます。スリン駅で藤田さんと無事合流できました。今は、スリン県の村に滞在しながら学校で子どもたちに日本語を教えているそうです。そして、キャンの昔の奨学生ペンちゃんがお手伝いに来てくれました。ペンちゃんは一生懸命お手伝いをしてくれて、奨学生の面倒もよくみてくれました。風邪で喉の調子を悪化させてしまったムさんのピンチヒッターとして大活躍！



【現地スタッフのムさん（左）、ペンちゃん】

藤田さんも熱心にノートを取っていて、自己紹介とスピーチをお願いしました。



【笑顔でスピーチをする藤田さん（右）】

5年前、スリンに来たことがきっかけで国際協力の道に関心を持たれたこと、藤田さん自身にも夢があり、その夢のためにタイに勉強しに来たこと。WCや奨学金授与式で見るタイの子どもたちと同じようにキラキラとした瞳で子どもたちに話しかけていたのが印象的でした。

授与式を終え、今度は列車でシーサケットに向かいます。2時間ほど列車に揺られ車窓の景色を楽しみました。



【列車からの風景】

藤田さんと隣席だった私は国際協力についていろいろ質問を受けました。最近は学生の女の子からの問い合わせや質問が本当に多いです。夕方5時頃、シーサケットの駅に着き、ペンちゃんとはここでお別れです。シーサケットの赤い夕焼けを見ながら3人で食事をとり、いろんな話をしました。



【シーサケット駅から見た赤い夕日】

宿泊先のホテル前にいろんな出店が並んでいたのので、気分転換にみんなで散策して楽しみました。今日と明日の授与式は移動が多くハードなので、今日は早めに解散です。

### 【授与式3日目】

午前9時、シーサケットの教育委員会で授与式が始まりました。

副教育委員長から挨拶があり、考えさせられるものがありました。

「シーサケットにはまだ貧困家庭が多く、勉強したくてもチャンスに巡り合えず、進学できない子もいます。なかには、奨学金をもらって進学できた子もいました。“自分で”インターネットで探す方法もあります。

今年から政府が15年無料教育を打ち出しました。制服代、教科書代は必要最低限であって、ただたくさんのお金がかかります。いろんな方法があるので、

自分から情報を集めて下さい。奨学金は勉強のために使って、服や携帯には使わないようにして下さい。貧困家庭なら、お金の価値がよくわかるはず。先生たちも協力して下さい。副教育委員長の「自分の力で」という話はとても心に残りました。

今回の県では、手が不自由な女の子もいましたが、みんなと同じ学校に通っていて、竹の皮でお菓子の入れ物を作るアルバイトをしているそうです。100個作って4パーツ。日本円にして12円。彼女は作るのがとても早いそうですが、イサーン（タイ東北部）では奨学金だけではまかなえず、アルバイトをして家計を助けている子も少なくはありません。そして、シーサケットの授与式で今回気になったことがありました。それは笑顔を見せてくれる子どもたちもいますが、表情が暗く乏しい子どもが多かったことです。これは、授与式に対する緊張感ではなく複雑な家庭環境から表情に表れているように思いました。

シーサケットでの授与式を終えたあと午後からの授与式ヤソトーンに向かいます。移動途中で2年前にも立ち寄ったクイッティアオ（タイのお米でできた麺）のお店に今回も立ち寄りしました。空が青く、南国を思わせるブーゲンビリアがとてもキレイでした。



【ブーゲンビリア】

お昼を済ませたあと、お店の前にクルワイケーキ（バナナやさつまいもを揚げたもの）が売っていたので、車中でいただきました。

2年前にいただいたとき、とてもおいしくて感動していたのを覚えています。ケーキとはインド系という意味で、インド人やバングラデッシュの人たちが作り始めたのが事の発端だそうです。



【クルワイケーキ】

午後1時、ヤソトーンに到着です。ここでも副教育委員長からの挨拶から始まり、いろんな県を周って思うのは、苦労されている副教育委員長が多いということです。ヤソトーンの副教育委員長も自らの経験踏まえてお話しして下さいました。

「私も裕福ではないですが、一生懸命勉強して今の生活があります。ドナーの皆様は教育の重要性を感じ、支援して下さいます。いつも子どもたちのことを大切に思い、ご支援いただきドナーの皆様感謝しています」。

日本も格差社会と言われ、大学を卒業したからといって必ずしも就職を約束されるわけではありません。なので、シーサケットの副教育委員長のお話にもありましたが、自分の力で切り開くことの大切さはとてもよく分かります。

副教育委員長からのお話は毎回授与式に参加する度、心に響き共感、感動することが多いです。



【奨学生（前列） 学校関係者（後列）】

いろいろ考えさせられる授与式でしたが、明日の授与式地ロイエットに向かう途中でなんとハプニングが起きました！

車に積んだと思っていたムさんの荷物が見当たりません。車中、緊張の空気が流れます。

なんとか、前のドライバーに連絡がつき、荷物が見つかり、届けてもらえることになり一安心です。

ロイエットのホテルに着く前に、フルーツ市場に寄りました。マンゴーやライチなどタイならではのフルーツが盛りだくさん。

私たちがマンゴー1kgをゲットしました！甘くてとてもおいしかったです。

夜は藤田さんも私もNT通信に載せる原稿書きのために部屋にこもります。原稿が書き終わったあとは、むさんと一緒に書類の整理をしました。作業の途中で、原稿を書き終えた藤田さんがやってきて、積極的にお手伝いして下さいました。

明日の朝、ロイエットでの授与式を終えたあと、藤田さんとはお別れです。

#### 【授与式4日目】

午前9時、ロイエットの教育委員に着くと副教育委員長の部屋に案内されました。新しい副教育委員長で、授与式が始まるまでの間、幼少期の頃のお話をして下さいました。



両親がいなくお寺で育ったそうで、学校まで10キロ歩いて通っていたそうです。

努力されて大学院を卒業し、学校の先生や校長先生を経て副教育院長に就いたそうです。今はお子様が二人いらっしゃいますが、子どもにもちゃんと勉強させたいと真っ直ぐな目で話していました。

ロイエットは、市内は発展していますが農村は貧困で、ほとんど農業のため雨が降らないと大変だそうです。

ちなみに、ロイエットはタイ語で101を意味します。これは、街がとても大きくて堀があり、街に入るには門を通らないといけない。門が101もあるからロイエットというそうです。

いろいろなお話をお聞かせいただいたあと、いよいよ授与式が始まりました。

ロイエットは過去に何度もWCをしていることもあり、生徒との交流もあるので、子供たちも人懐っこく明るく可愛い笑顔を見せてくれます。



【ロイエットで明るい笑顔を見せてくれた奨学生】

私が2年前奨学金授与式に参加したときに写真を撮らせてもらった仲の良い女の子4人組もいました。

彼女たちが覚えていてくれたことが嬉しくて、授与式後、一緒に写真を撮ったり、お互いの母国語を教え合ったり、本当に楽しい時間でした。彼女たちは今日の授与式のためにバスで2時間の距離を学校の先生と一緒に来てくれたそうです。

別れ際に日本語で「ありがとう。さようなら」と言ってくれました。

ロイエットの授与式が終わり、みんなで昼食を取った後、バスターミナルまで藤田さんを送りました。

合流した日、移動の列車の中で「家族が大好きで、私の両親カッコイイんです！」と幸せそうに話していた藤田さん。今の日本で、同じように言える人がどのくらいいるのでしょうか。

滞在先のホテルでは書類の整理を一緒になって手伝って下さいました。

今回の授与式同行期間中にいろいろなお話をさせていただき、私自身学ばせていただくことがとても多かったです。

そして、いつも真剣に準備や対応をしてくれるムさん、本当にどうもありがとうございます。ムさんのおかげで無事終わることができました。

笑顔で別れを終えたあと、午後からの授与式地マハサラカームに向かいます。

今回は副教育委員長が不在のためスピーチもなく、奨学金担当者も私たちのやりやすいようにと自由なスタイルでの授与式でした。

マハサラカームで授与式を終え、明日の授与式地のカラシンに向かいます。カラシンは思い入れの深い地域で、今回訪問するのが本当楽しみでした。カラシンで泊まるのも初めてです。



【カラシンにある大きな池のある公園】

ホテルから少し歩いた所に大きい池のある公園があり、地元の人たちはここでウォーキングしたり積極的に運動する人たちがたくさんいました。夕暮れが本当に美しかったです。

池の景色を眺めながら夕食をとり、帰る前に強風が吹き始めたので急いで帰る途中で強い雨が降ってきました。ムさんも私もずぶ濡れでホテルまで歩きました。これも今となっては楽しい思い出です。

### 【授与式5日目】

朝、ホテルを出るときに美しい民族衣装を身に纏った女性たちとすれ違いました。とてもきれいだったので、写真を撮らせていただきました。

カラシンの教育委員に着くと、お坊さんになった奨学生がいました。



【お坊さんになった奨学生（右）】

家計的にどうしても厳しい場合、お寺に入ることもあるそうです。オレンジ色の布を身に纏い、タイではお坊さんに触れてはいけないので、奨学金を渡すときも机の上に置いて、手で取ってもらうよう教育委員会の方からアドバイスを受けました。

カラシンでは、2年前の授与式のとき庭に持っているマンゴーを持ってきてくれた男の子（オフ君、当時高校2年生）がいました。

今はサコンナコンの大学に進学しましたが、彼の伯母さんが今年もマンゴーを持って来て下さって思い

がけぬ贈り物に驚きました。

そして、自分の奨学生にも会うことができ、一緒に写真を撮ったり、日本からのお土産を渡したり、笑顔を見る度に幸せな気持ちになり、今回無理してでもスケジュールを組んで授与式に参加してよかったと思いました。

授与式を終えた後は、教育委員会の方がおいしいイサーン料理を食べに連れて行って下さいました。藁でできた屋根で、ガイヤーン(鶏肉の焼いたもの)、ソムタム(パパイヤサラダ)、カオニャオ(もち米)をおいしくいただきました。



【イサーンの名物料理(左手前はソムタム)】

味も良く身もしっかりとしていて、こんなにおいしいガイヤーンは生まれて初めてです。

昼食を終えた後は、コークナーディー学校に訪問させていただきました。

カラシンのオフ君が卒業した学校で、7年前、彼が一番初めに奨学金をもらって今までで7人奨学金を支給されているそうです。幼稚園、小・中学生全て合わせて170人。3つの村から子どもたちが通っているそうです。



【コークナーディー学校】

お昼ごはんは幼稚園から小学6年生まで全員に給食が支給されます。中学生は持ってきたり、家に帰って食べたりするそうです。

学校生活を送る上でいろんな費用が必要になりますが、その中でも制服の占める割合がタイでは大きいのです。通学用の制服以外に、民族衣装や運動服、ボーイ&ガールスカウトのような課外活動用の制服など4種類くらいあります。

今年からタイの新政府が15年無料教育を打ち出し

ましたが(授業料は前から無料)教科書や制服などの支給方法は学校によってだいぶ異なるようです。この学校は校長先生を筆頭に生徒思いの先生が多く、制服は1着あればOKで、足りない場合は違う服を着てきても良いと自由なスタイルです。

お話をお伺いしたあと、学校内を見学させていただきました。ちょうど小学校一年生の子たちが可愛い民族衣装を身に纏って一列にお行儀よく並んでいました。



「小学一年生の子もたちと図書館の前にて」図書館で楽しそうに本を読む姿など、本当に可愛かったです。

学校訪問のあとは、生徒の家を案内していただきましたが、働きに出ていて不在の家が多かったです。



【奨学生ポン君の家の前にて】

村では手作りの織物をしている80代のおじいさんが元気よく仕事をしていました。

生活は豊かでもなくとも生き生きと仕事をしている表情は明るく力強さを感じました。



【織物をする80代のおじいさん(手前)】

見学を終えたあとは、明日の授与式地サコンナコンに向かいます。

授与式も5日目ともなると疲れが出てきて、ムさんが復活した代わりに（ムさんは前半ダウン気味で後半が強いです）私が後半でダウンしたり…2年前と同じ状況に思わず二人で笑ってしまいました。

夜はなんとカラシンの奨学生だったオフくんがサコンナコンの大学に進学したこともあり、私たちに会いに来てくれました。



【左からオフくん、白柳、オフくんの友達】

2年ぶりの再会で少し緊張しましたが、すっかり大人っぽくなっていて驚きました。

新しい学校生活の話やカラシンでの楽しい出来事、オフ君の庭になるおいしいマンゴーの話などあつという間の時間でしたが再会できたことが嬉しく、楽しいひとときでした。

明日はサコンナコンで授与式です。ここでも再会が楽しみな方がいます！

### 【授与式6日目】

朝起きると少し頭痛がしたので、朝食後に頭痛薬を飲みました。今日は教育委員の方がゆっくりめに迎えに来ることがわかったので、部屋で少し休みました。

9時前にロビーに移動すると、2年前いろいろと案内をして下さった教育委員会のジョーさんが覚えて下さって嬉しかったです。2年前一緒に案内をして下さった女性のトゥムさんにご結婚されたとのことで、今日は奥様にお会いできるのもとても楽しみでした。

教育委員に着くと教育委員長と副教育委員長がいらっしゃって記念品をいただきました。2年前にいただいたきれいな布も今も大切にしまっています。



【みんなで記念撮影】

教育委員長からのスピーチがあり、ひとりひとり奨学金を手渡したあと学生を代表して専門学生のワ

ンリサーさんが挨拶をしてくれました。



【スピーチをしてくれたワンリサーさん】

「この奨学金のおかげで進学でき、親の負担を減らすことが出来ました。ドナーの皆様、ご支援ありがとうございました」とひとつひとつ丁寧な言葉でスピーチをしてくれました。

2年前にも会ったことのある子たちはときどき笑みを見せてくれて嬉しかったです。ムさんの愛情溢れる対応で子どもたちの顔からも笑みがこぼれます。

授与式が終わると、2年前サコンナコンを案内して下さいした他の教育委員の方も会いに来て下さって、記念に写真を撮りました。すでに、一児の母になっていて、お嬢様の可愛らしいお写真も拝見させていただきました。



【会いたかった教育委員の方々と2年ぶりの再会！】  
彼女らとの再会でいつしか私の頭痛も良くなり元気を取り戻しました。

そして、今朝迎えに来てくださったジョーさんの奥様トゥムさんとお会いできました！

トゥムさんは日本語を少し勉強されたようで、日本語で話しかけてくれました。今日は、ご夫妻と一緒に昼食を取り、楽しい時間が過ごせました。

お昼ごはんを済ませた後、学校訪問に行きました。バーンノンサナイラーサディ学校に寄り、校長先生からいろいろとお話を伺いました。

生徒数は幼稚園から中学校までの264名で、なかなか訪問に来てくれる団体はいないそうです。1～2年奨学金を支給してくれる団体はあっても、キャンのように長年続いている団体は少ないとのことでした。

この学校も生徒思いの先生方が多く、運営上手ということもあり、余ったお金は上手に回し、幼稚園から小6まで支給される給食も中3まで支給しているそうです。



新政府の15年無料教育の支給方法は、教科書と特別活動については学校側で管理して購入し、制服と文房具は学校から生徒の親に直接渡しているそうです。この新政府の導入で、ある程度親の負担を減らすことができたとのことです。足りない部分もあるけれど、ますます満足とのことで、余った予算で足りない生徒に制服代を支給してあげることもあるそうです。

少し学校の中を案内していただき、3人の新規奨学生の家訪問に行きました。

3人共、両親がいないか片親で祖父母を暮らしている子が多かったです。

なかでもシング君(小6)は将来、車の修理屋になりたいと、校長先生が「今は何の修理ができるか」聞くと、「自転車の修理なら出来る」と答えていました。私が日本で自転車に乗ることを話すと、もし私の自転車が故障したら直してくれる笑顔で話してくれました。



【将来、車の修理屋になりたいシング君】

どの子もそれぞれに将来の夢を持っていて、勉強も一生懸命、品行方正ということもあり、学校の先生たちが新しい制服を支給してあげたそうです。

小6のムーちゃんという女の子は両親を HIV で亡くし、85歳の祖母と暮らしています。

お姉さん(22歳)は村の診療所でスタッフとして働いていて、毎週戻ってくるそうです。

ムーちゃんの夢はお姉さんと同じように人を助けるお医者さんになりたいそうです。普段は自分でもち米を炊いたり、ソムタムや玉子焼き作ってお手伝いをするそうです。笑顔の可愛い、ホラー番組とお花の絵を描くことが大好きな女の子です。



【子どもたちの家を訪問】

最後にみんなで記念撮影をするときに、私がフラワーアレンジメントの仕事をしていて、お花が好きということでタイ風アレンジメントをプレゼントしてくれました。

タイらしくカラフルな色で、手作りだそうで、その気持ちがとても嬉しかったです。私は日本から持参した折り紙や日本のお菓子をプレゼントしました。



【子どもたちからプレゼントをいただきました】

家庭訪問を終え、明日の授与式地であるムクダハーンに向かいます。100km以上の距離を移動し、送っていただいた教育委員のご夫妻と宿泊先のホテルでお別れしました。

ムさんから2人がご結婚されたことを聞いていたので、2人の写真が飾れるよう日本の和柄の生地で作ったフォトフレームを渡し、2人を外まで見送りました。

子どもたちだけでなく、会いたかった教育委員の方々にも再会でき、とても良い一日になりました。

ムクダハーンといえば、メコン川とベトナム料理です。夕食前に広大に広がるメコン川を見に行き、遠くに小さく見えるラオスをバックに写真を撮りました。



【川岸の向こうに見えるラオス】

その後、ベトナム料理屋に移動しました。ムクダハーンの副教育委員長にお食事に誘っていただきましたが、急な仕事で一緒に行くことができず、わざわざ滞在先のホテルまでご挨拶に来て下さいました。副教育委員長とお別れしたあと、むさんと一緒にベ

トナム料理を楽しみました。ベトナム風のチャーハンなどを注文し、優しく温かい家庭料理でおいしかったです。

長いと感じた授与式も明日で最終日を迎えます。悔いのないようしっかり取り組みたいです。

**【授与式7日目】**

授与式最終日の6月26日はタイで麻薬防止の日です。各地でイベントが行われ、教育委員会に行くとグラウンドでパレードが行われていました。



【学校の先生と奨学生たち】

午前中の授与式は9時からのスタートですが、遠くに住んでいる子は100km以上の距離を始発のバスで来るそうです。この県は学校の先生たちも一生懸命な様子が伝わってきました。

そして、昨日お会いした副教育委員長スリヤさんからスピーチがありました。はじめに日本語で「ようこそ」と言っていたら、嬉しかったです。

ムクダハーンには、ドナー様のご支援のおかげで8年間奨学金をもらってきた奨学生がいたことなどを話して下さいました。



【奨学生と話すムさんと副教育委員長スリヤさん】

ムクダハーンで授与式を終えたあとは、今日の最後の授与式地ナコンパノムに向かいます。

時間がないため、15分でお昼を済ませます。

午後1時20分、教育委員会に無事到着！

会場のある3階に移動しますが、入り口が分からずステージから登場するという、珍ハプニングが起きました。奨学生もびっくりです。

副教育委員長からスピーチがあり、ひとりひとり順

番に奨学金を手渡しました。

奨学金授与式には、ドナー様や私たちスタッフに子どもたちがお土産を持ってきてくれることがあります。子どもたちにはお金は使わないよう話しています。

お土産は家にあるものや手作りのもの、奨学金は勉強のためだけに大切に使うしてほしいことを伝えています。

この県でも手作りのカゴなどをお土産に持ってきてくれた奨学生がいました。記念に一緒に写真を撮りました。



【左から現地スタッフのムさん、奨学生、白柳】

奨学金を手渡したあとは、キャンを代表してスピーチをさせていただきました。最後ということもあり、思わず熱が入ります。

私にとって2年ぶりの授与式ですが、訪れた際、イサーンの変わった様子はとくに感じませんでした。

ですが、他県の副教育委員長の話からで、近年タイでの奨学金が増えていることをお聞きしました。大学まで支援してくれる皇太子の奨学金（学部によって支援金額が変わるそうです）、

医学部進学希望者のための奨学金（数%の人しか受からず、卒業したら郡の病院で働かないといけません）、そしてキャンヘルプタイランドの奨学金。どの生徒にどの奨学金が一番相応しいか選出しているそうです。

18年前、キャンヘルプタイランドを設立したアメリカ人のハリーレイ先生（当時、筑波大学教授。現名誉会長）は、いずれ“タイ人によるタイ支援”という考えで活動を始めています。



【学校の図書館で本を読む子どもたち】

私たちキャンヘルプタイランドの活動は、タイの貧困地域の子もたちに教育の機会を与えることや、一生懸命生きる人たちをサポートすることですが、タイの新政府「15年間無料教育」の導入や学校訪問をさせていただいた際に学校運営の工夫次第で子どもたちに給食や制服を支給できるということ、タイ人によるタイ支援が少しずつ増えてきていることを感じました。

しかしながら、親を亡くすことで生活が変わり、家計を助けるために学校に通うことを諦め、働き出る子どもたちがいるのも現状です。

また、タイ東北部は農業以外の産業があまりありません。低賃金の日雇い労働や出稼ぎのために村を出て家族が離れ離れになり、そのまま消息不明になるケースもあります。

家庭訪問をすると両親がいない、あるいは離婚している家庭が多いです。一概には言えませんが、家庭崩壊の原因のひとつに“貧困”があると思います。

親を亡くした（病死以外の離婚も含む）子どもたちは、本当に健気で生きることにより一生懸命です。勉強もしっかりと取り組み、礼儀正しく、家の手伝いをして祖父母を助けます。

そして、家族と一緒にいられることが彼女らにとって何よりも幸せなのです。WCでも授与式でもいつも感じるのですが、子どもたちの瞳はキラキラと輝いています。

キャンの活動をご理解いただきご支援下さるドナーの皆様、ご寄付いただき誠にありがとうございました。ドナーの皆様の奨学金のおかげで進学でき自分の夢を叶えて歯科衛生士になった子がいます。もし、教育の機会がなかったら、彼女の今はなかったかもしれません。

今後子どもたちのキラキラと輝く瞳や笑顔が続くよう、ご理解ご支援賜りますようお願い申し上げます。そして、今回の出張にあたり現地でお世話になったムさん、支えて下さった運営委員の皆さん本当にありがとうございました。

## 奨学金授与式同行記

今回、奨学金授与式に同行させていただきました。横浜市立大学国際総合科学部4年の藤田有紀と申します。3日間という短い間でしたが、団体の方と共に行動しながら、多くのことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

同行体験談を書かせていただく前に、私が今回、キャンヘルプタイランドの奨学金授与式に参加させていただいた経緯を述べさせていただきます。

5年前、高校1年であった私は、「海外で人を“助ける”仕事がしたい。そのためには現地を見なければならぬ。」と考え、タイへのスタディツアーに参加しました。初めての海外でスラム街を歩き、農村にホームステイをするなかで、そこに住む人々の生きる力に驚かされ、笑顔に癒されました。スタディツアーに行く前は、「貧しいだろう、かわいそうな生活をしているだろう。」と漠然と考えていたのですが、同い年の子どもたちと共に星空をみあげ、バイクで3人乗りをして歌をうたい夜道を走りながら、「あ、なんだ、同じなんだな。国境なんてないんだな。」と、純粹に感じました。しかしながら、私が行ったスラムにも東北部の農村にも深刻な問題が多く、将来の選択肢を得られない人々がたくさんいます。そこに矛盾を感じ、“生まれた場所・環境が違っただけで、選択肢が得られないとしたら、それはやっぱり何とかしたい”と、思うようになりました。また、そのスタディツアーで“将来は国際協力を仕事にする、そのなかでもNGO職員になりたい”という夢ができました。海外で人を“助ける”のではなく、“共に笑いあいたい・共になにかをつくりだしたい”というのが理由です。

タイから帰ってからは、国際協力のことをもう少し勉強しよう、とNGOによるワークキャンプに参加したり、NGO団体に直接連絡し訪問させていただいたりしました。大学を選ぶ際は、特別な技術や資格がなければ海外で人の役に立つことができないだろうと考えながらも、国際協力や開発についての知識なしに特別な技術を選ぶことができず、まずは知識を蓄積させようと、国際と名のつく学部のある大学に進学しました。

大学では、1年次に「タイにおけるスラム街の形成」について勉強しましたが、スラム形成要因として農村からの出稼ぎ労働者の存在が大きいということがわかり、2年次からは、農村で出稼ぎに行くという選択肢しかない人々に、違った選択肢ができないかと、農業技術の発展とその他の産業発展の可能性、また開発の手法について研究するようになりました。

3年間、ほとんど海外での活動を行わず、机上での学びに集中してきましたが、就職活動を前に、「このままでは自分の夢である国際協力の現場をほとんど知らないまま社会に出ることになる。」と不安に感じ、今期は大学を休学して海外でNGOインターンをするという決心をしました。5月末から約5ヶ月間、3団体のNGOでインターンを行いながら10以上の異なる団体を訪問させていただく予定です。(体験談を書いている現在はスリン県タクラン村にある中・高校で日本語教師をさせていただいております。)

今回、キャンヘルプタイランドはHPを拝見し、ぜひ活動地を視察させていただきたいとメールしたところ、ちょうど私がタイの東北部で活動している期間に奨学金授与式があるので同行してはどうかというご返信をいただき、スリンからロイエットまでの3日間、特別に同行させていただきました。

奨学金の授与式ではたくさん子どもたちや教育委員の方々にお会いすることができ、教育の必要性和奨学金の大切さを感じました。またそれと同時に、徹底した奨学金管理を行っている貴団体に驚かされました。同行させていただく前に、事前学習としてキャンヘルプタイランドのHPを拝読し、団体が無償スタッフ（ボランティア）によって運営されていることを知りましたが、それできちんとした活動ができるのであろうか、と疑問に思っていました。しかしながら、子どもたちの様子や生活状況がきちんとわかるよう提出書類やアンケート用紙がきちんと用意され、不正がないよう直接子どもたちに手渡しで奨学金を授与している団体の方の姿を見て、きちんとした運営がなされているのだと感じました。

また、3日間で4ヶ所の授与式に参加させていただきましたが、奨学金を受け取る子どもたちと、奨学金を渡す団体の方の姿を近くで拝見し、その奨学金にかけられた想いが伝わってきました。一人一人の顔を見ながら笑顔で奨学金を渡す姿を間近で見ながら、ドナーの方々の想いと、それを現地にはこぶキャンヘルプタイランドの方々の想いが、こうやって直接届けられるのはすばらしいことだと感じ、心があつくなりました。

また、ハードスケジュールでお疲れにもかかわらず、授与式の移動中に、団体の運営方法、人数、活動の内容などを丁寧に話していただきました。そのなかでも、少ない運営委員で仕事を分担し、情報を共有し、相談しあいながら責任をもって事業をこなしていくというお話がとても印象的でした。また、経済成長に伴う物価の高騰や政府による教育制度・政策の変更など、タイ社会の変化にも柔軟に対応していこうという姿勢がみられ、ひとつの活動において、質の維持・向上が常に考えられているというのがわかりました。

ほかにも、奨学金を授与するだけでなく、その県についての基本的な情報を事前に勉強しノートに記入した上でその地域に住む子どもたちや教育委員の方と接している姿、その日にどのようなスケジュールで何があったのか、誰がどのような話をなさっているのか等を真剣に聞きながらメモをとる姿、どこに行っても領収書を必ず書いてもらう姿、奨学生（すでに学校を卒業した生徒を含め）との良好な関係を維持し何度も奨学生からの電話に対応している姿など、団体の方々の行動を近くで拝見しながら、大切なことをいくつも学ばせていただいたように思います。当たり前だと思われる行動もあるかもしれませんが、このスケジュールのなか決して手をぬかず、モチベーションを維持している団体の方々の姿に感動いたしました。

3日間、このように多くのことを学べたのは、奨学金のドナーの方々、キャンヘルプタイランドの運営委員の方々、現地の方々のおかげです。本当にありがとうございました。名古屋で行われている集会にもいつかご挨拶に伺いたいと思います。

最後になりましたが、現地で特別に参加した私に親切に接して下さり、さまざまなことを教えてくださったムさま、そして、タイに来る前から何度もメールでのやりとりをし、団体についてのお話や現地の問題についての話を丁寧にしてくださり、会報やネットワーク通信も持ってきて下さり、またスリンへの帰り方から携帯電話についてまで私の心配事に丁寧にこたえてくださった白柳さまに心から感謝いたします。本当に、本当にありがとうございました。

藤田 有紀

## 特集記事 2

### ～3月交流ツアー旅行記 中編（3月22日～3月23日）～

著者 市野忠士 様

#### 3月22日(日)晴れ 朝の散歩とミサ

このキャンプに来て最初に聞いた話では、昨日は軍隊の見学とその中での食事、今日は高級ホテルの見学とそこでの昼食と聞いていましたが、昨日の内にホテルの昼食も終わってしまいました。そこでムさんから聞きなおした今日の予定は、午前10時から日曜集会を開いて、その後はチュアムの海岸へ行って、海水浴をするそうです。

朝はまた、太陽の出るところにだけ入道雲があって日の出が見えませんが真っ赤な朝焼けはきれいに見えました。その後で朝の体操がありました。子供たちは行儀良く並んで体操をしています。残念ながら朝方は潮が満ちている時で、少しずつ砂浜が現れるところです。そのために誰も海には入りません。

朝の散歩で一人で出かけて北隣の別荘地の海岸を見学しました。行きは良い良いで、2軒隣の別荘地の海岸部分を歩きました。しかしその先へ行こうとして犬にほえられました。その鳴き声にあちらこちらの別荘から犬が跳んできます。そして吠えつけられてハウハウのていで逃げ帰ることができました。全くタイの国ではどこへ行っても犬が番をしています。

朝のミサはあまり長くはありませんでした。日曜日ですので長くかかるかと心配しましたが、やはり海水浴に行く準備のためにか早く終えたようです。そして最後に、子供の割り当てが発表されました。混雑するチュアムの海岸ではぐれないように大人に割り当てたのですが、我々日本人には割り当てがありません。なぜなら言葉が通じないからです。

## チャアム海水浴場

バスに乗って北へ5kmほど戻ったところがチャアム海水浴場です。町はホアヒンほどの賑わいはありません。こちらはタイ人(庶民)用の海水浴場です。内海の砂より一寸劣るがかなり綺麗な白砂が延々と続いています。10kmはあるのではないのでしょうか。海岸部は一方通行になっていてバスは近づけません。一本内陸に入ったところにバス用の駐車場があり、そこから歩いて海岸に出ました。

砂浜にはびっしりと椅子とテーブルが並べられ、パラソルで日陰が作られています。沢山の人数なので、新しい砂浜にたちまちに席が作られました。席は沢山必要ないはずですが、交渉に手間取っていました。その間にはいろいろなご馳走を持った売り子がやって来て、テーブルの上に並べます。

タイ人のほとんどは海水浴といっても服もズボンもはいたままで海に入っています。子供たちにはパンツひとつで泳ぐには恥ずかしいのか、ためらっていました。割り当てられた大人の婦人たちは海に入ろうとしません。子供たちにとっては、この海水浴場は向かないようです。

ご馳走といい、海を走り回るバナナボートといい、大きなチューブの浮き輪といい、どれもこれも金がなくは楽しめない物ばかりです。キャンプ地の海岸ではそのような金のかかるものはありませんのでみんな楽しく海に入って遊んでいました。難しい問題です。

でも、集合が3時と言うことで解散となりましたので、割り当てられた人の子を取ってもいけないので、海岸の探検を一人ですることになりました。水野さんはマッサージにでかけました。

## チャアム散歩

海岸をまずは、南に向かいました。この町の中央部に海岸を埋め立てて展望・休憩広場がありました。そこには、この町の産物である「イルカ・カニ・海老・イカ」のモニュメントがあります。いる海外をこの町の漁師さんが取ってきて、フライやてんぷらにして売り歩く人が沢山います。

南を見ても北を見ても延々と砂浜が続き、海水浴客が沢山います。パラソルの林も続きます。泳ぐ人以上に椅子で寝そべっている人のほうが多い状態です。どこまで続くんか分かりません。そこで、北へ向かって、岬まで行くことにしました。

海岸通りはすべて商店街で、食べ物ややみやげ物屋が並びます。日本と違って年中海水浴ができるからよく流行るのでしょう。途中で大きな高級ホテルがありました。西洋人の姿が見えます。そして海岸をみると、なんとホテルの前だけ、パラソルの色が白くて、パラパラとしか置いてありません。海岸もはっきりと白人用とタイ人用と区別してあるのです。

そしてホテルの終わるところからはまた青色のパラソルがびっしりと並んでいます。見事に使い分けられているのです。

岬が近づくと道路が2本に分かれ、商店もまばらになりました。ここら辺りまでがチャアムの海水浴

場のです。自動車もバスもぎっしりと並んでいます。年中海水浴ができるといってもやはり、3月末には学校関係が夏休みに入り、その最初の土日と言うことで一番混雑する日なのでした。

小さな川が流れ込みその河口にはおんぼろな、使われていない漁船が置いてありました。やはり中心を離れば、寂しい感じの場所となってしまいます。中心部へUターンしてそろそろ昼食にすることにしました。まだ3時には間があります。

## おいしかった野菜炒め

中心部で高級ではなく、また屋台でもないちょっとしたレストランに入りました。冷房がありません。入り口近くで食べている真っ赤な汁のラーメンが目に入りました。

言葉が通じませんので難しいです。席について、入り口のほうを指差して、ラーメンと言いました。すると、「トムヤンクン」と返事がありました。確かトムヤンクンは麺ではないと思ったのですが、相槌を打って、そうだとトムヤンクンラーメンと言ってやりました。

おいしい良く冷えたシンハービールを飲みながら、待っていますと間違いなくラーメン入りのトムヤンクンが出て来ました。汁は真っ赤な色をして辛いですが、ようやく本物の味といった感じでした。

若奥さんが赤ちゃんを抱いていました。この子の名前は通称を「進之助」と言うのだそうです。タイの国でも「クレヨン進ちゃん」が大流行のようです。

「指差し会話タイ編」を見たら「野菜炒め」が載っていました。そこで野菜炒めを注文して、もう一本ビールを頼みました。どんな野菜炒めが出て繰りか楽しみです。おばあさんと息子さんが出てきて「指差し会話」を盛んに見初めました。そして色々な言葉を教えてくれと言って、話が弾みました。さらにはお金を見せてくれと言うので、硬貨を6種類そろえて見せてやりました。

野菜炒めは全く日本の物と同じようで、キャベツ、白菜、ニンジン、カリフラワーが大きめに切っており上手に炒めて、醤油(日本のと一寸違う)味がついていました。こんな野菜炒めはタイでは始めてです。新之助に挨拶して気分良くレストランを出ました。

## バスはいなかった

二時になったので集合時間より早いけれどレストランを出て海岸へ戻りました。ところがあったはずの希望の家の本部が見当たりません。回りは全て同じ青いパラソルとベンチです。正確な場所を確認することは不可能です。右へ左へと、目印になりそうなところから探し回りましたが、見つかりません。

時間が迫ってきますので、「3時にバスに集合」の約束ですので、バスの駐車場へ向かいました。ところがそこにはバスもいませんでした。バスの代わりに、一台のトラックが止まっていて伴さんたちが待ち構えていました。

「予定時間が早くなって、バスは2時半には出発しました」と言うことでした。私だけがその時間に



いなかったこととなります。商店街をうろつくグループも見ただけですがそれも午前中でした。やはり子供たちにとってはこのタイ人たちが集まる海水浴場では心落ち着いて遊べなかったようです。

なにをするにも、何を食べたり飲んだりしてもお金がかかります。しかも目の前にそれらの魅力あるものがあるのですから、つい気を取られてしまいます。気の毒なことです。この後、宿舎に帰って子供たちは暗くなるまで海の中ではしゃぎまわっていました。宿舎前の海こそが彼等にとってはやはり天国だったのです。クラゲに刺されるかも知れませんが、周りに気を取られずに自分たちだけで楽しめる場所でした。

トラックに乗って、チュラム市の市場によって、夕食の買出しをして、私は子供たちにと菓子を一斗缶ひとつを買って宿泊地へ帰りました。子供たちは元気に海で泳いでいました。水野さんと二人で一息入れに飯場へ行きました。バスの運転手さんたちも来ていました。

### 夕食を食べそこなう

夕方になり、海岸横で海をながめていると、またバーベキューの準備が始まりました。また今日もバーベキューをするようです。昨日手伝ったので要領が分かります。五十人分も作るとなると大変なことです。そこでついまた手伝うことにしました。とにかく炭を常に補給しないといけないし、すぐに火が強くなってしまいます。

昨日のように海老・魚・イカ・豚肉などを手際よく焼いて何とか早く夕食に間に合わせようとしてしました。伴さんは最初手伝っていましたが、すぐに消えてしまいました。宿泊地に荷車で焼肉やソーセージを売りに来ました。だれかがそれを買ってきてくれてバーベキューを焼いている人たちに差し入れてくれました。辛いですがおいしかったです。何とか三分の二ほど終えたところで、水野さんがやって来て、「市野さんは食事をしないのですか」と聞かれました。「え、ここで焼いているのが食事になるのではないのですか」と聞き返しました。「子供たちはすでに食事を終えましたよ」と言うので、あわてて食堂へ走って行って夕食を頼みましたが、すでになくなって食べさせてもらえませんでした。

どうなっているのでしょうか。とにかく分からないので先ほどの串刺しを3本ほど腹に入れてバーベキュー焼きから退きました。バーベキューはタサニさん一族の食事であると言う言葉が聞こえて来ました。言葉が通じないのでよく分かりません。

後で伴さんに聞いたら「僕は腹が減ったから子供と一緒に食べました。でもこの後で大人だけの食事会があるから招かれている」と言うことでした。知っていても教えてくれなかったのです。さすがに頭にきたので夕食は串刺しだけでやめにしました。言葉が通じないところで食べていてもおいしくありません。

### 3月23日(月) 晴れ 朝の散歩

毎日同じように6時少し前に起きて6時からの朝焼けを見て、7時半からは朝食になりました。今朝は簡単にお粥と卵だけです。いよいよ帰宅の日になります。希望の家と行動をともしている時は、タサニさんの予定が良く変更になりますが、ムさん・伴さんと中々うまく伝わって来ません。

食後にはこっそりと散歩に出かけます。出発は早めの昼食を食べてからと言うことですので。

まずは飯場を通り越して、県道に出て、そこを南へと歩きます。家も建っていない静かなところ。その先に飛行場の塀が見えているだけです。

飛行場はかなり高台にできていました。小型機やヘリコプターが並んでいます。大型の飛行機は見当たりません。正式の天国の海岸もありました。そこには大型のホテルが建っています。地元民の小さな集落や雑貨屋もありました。ホアヒンの一番北の端でしょう。

海岸に出ますと、波打ち際に砂浜が少し見えます。これから潮は引いていくのだからと、裸足になって砂浜を歩いて帰ることにしました。これなら犬に吠えられないでしょう。海には境目はありませんので、1kmも歩けば宿泊地に帰れます。

歩いていくと最後の海水浴を楽しんでいる子供たちの集団が見えました。名残惜しそうにいつまでも入っていました。宿泊地に着くとその子供たちの中に入って遊びました。しかし、1度も水着に着替えることなく海水浴は終わりました。

### 昼食と出発

11時から宿泊地での最後の食事になります。朝のうちに作っておいた大きな布のようなビーフンをきし麺状に切った物に味がつけてあります。それに卵がつかます。タイでは卵は生では食べません。生卵は日本だけなのでそうです。それだけ日本の卵が安全なのです。必ず茹でるか、卵焼きでもしっかりと揚げます。

12時15分にはバスが出発しました。子供たちで満員です。いつチェンマイの希望の家に着くかわかりません。我々キャン・ヘルプ・タイの6人は、来た時と同じように、ワゴン車を貸しきって、バンコクへ向かいます。バンコクから夜行列車でチェンマイへ向かうのです。

そのままバンコクへ行ったのでは早く着きすぎてしまいますので、途中で水上マーケットに寄ってから行くことになりました。これだけの人数の時はムさんからの指示だけを聞いていけばよいので安心できます。とにかく次の予定が分からないのが一番困ります。

来た道を約200kmほど猛烈に突っ走ります。このバスの中でムさんが運転手さんの使っているタイ全国の道路地図を見せてくれました。地名にアルファベットが入っているので、私でも地名が読めます。地図には、350パーツを消して200パーツと書いてありました。そこで地図を返さずに、200パーツを運転手さんに渡して分けてもらうことにしま

した。

子供たちの乗ったバスをすぐに追い抜いて塩田地帯を越えて、3時30分にバンコクの手前にあるスタンチン県のターチン川の辺にある水上マーケットに着きました。日本人が行く観光用の水上マーケットとは場所が違います。

### メナムの残照

ターチン川水上マーケットと言うところに行きました。バンコク市を流れるチャオプラヤ川の西にあるタープー寺というお寺の門前町が水上マーケットになっています。沢山の店の西半分は川の上に杭を打って建てられているのです。

到着市や時刻が3時30分過ぎて、ムさんの知っている遊覧船の乗り場に行ったら、本日はもう終了したと言うことでした。あきらめて水上マーケットを見学していたら、運転手さんから電話が入って、別の遊覧船のところで4時出発があると言うことで、急いで出かけました。遊覧船はいくつもあるようで、言葉が通じないと全くわかりません。外人はほとんど来ない観光地です。

船に乗ると、程なく出発しました。10人ほどが乗船しています。最初上流に少し行ってUターンして下流へ向かいました。水上に建っている家もあります。家の周りが空芯菜の畑だそうで水の中に生えています。ホテイアオイも沢山浮かんでいますし、上流からも流れてきます。昔は困りものでしたが、今ではその繊維を利用して繊維が作られます。

時々工場があります。精米工場だそうで、大量の米が回りの農村から運ばれてくるのです。そして、150年以上前の木造のきれいな家がありました。それが、映画「メナムの残照」の撮影に使われた家だそうです。

「メナム」の残照はタイの女流作家で、同名の本が発行されてとても有名になって今までに3度も映画化されたそうです。第2次世界大戦中にタイに進駐して来た、日本兵小堀さんと地元の少女との淡い恋愛関係の内容です。一時期は日本人を見ると「小堀さんですか」と、言われたほどだそうです。今は進之介です。

### タイの弘法参り

観光船は、約30分ターチン川を下った後で、ライキン寺という有名なお寺の前まで行ってUターンしました。その時に船に積まれていた食パンを販売しました。5つも入って10パーツ(約36円)です。これは人間が食べてもかまいませんが、魚の餌用なのです。

タイの仏教の教えで、生き物に供養・施しをすることが来世の幸せを約束するものです。そのためにこの食パンを船が泊っているところにちぎって投げ入れると、船の周りには無数の魚(おそらくナマズだろう)が群がってきて食します。この魚はライキン寺が飼っている様なものです。でも大きく育ったらおそらく漁師に権利を与えて儲けているのでしょウ

イアン日本のお寺とは違うかもしれません。

普段出ている観光船には1時間15分コースと2

時間コースがあります。1時間15分コースで大人ひとり60パーツ(約220円)です。2時間コースでも100パーツ(365円)です。

それ以外に、この観光船会社では4月から9月にかけて月に1回の割りで、特別巡礼団を募集しています。それぞれ何か仏教にとって大事な日に、9つのお寺を回る巡礼団を募集しています。朝の8時30分に出発して9つの重要なお寺をひと回りするようです。日本で言えば、弘法参りのようなものでしょうか。

日にちは今年、4月19日・5月10日・6月14日・7月12日・8月9日・9月13日です。この日が仏教にとって重要な日だと思われます。(タイ語が分かりません)そしてその費用が大人で550パーツ(2千円)、子供でも400パーツ(1460円)もします。こんな高い金を出してタイの人は参加するのでしょうか。

### ファランポーン駅

水上マーケットを出るとすぐにバンコクの渋滞になります。とにかく世界で1・2を争う渋滞の町です。道路も朝と夕方では斜線数が変わりますがそれでも簡単ではありません。余裕をもって行動しているので心配はいりませんが止まってばかりです。宮殿を西北から当年に向けて徐々に進みます。最後に中華街を越えてバンコクのファランポーン駅に出ます。

ファランポーン駅が一応中央駅ですが、行き先によって出発駅が違ってきます。しかも困ったことに、東京のように、それぞれの駅はまったく離れたところにあってしかも鉄道で結ばれていません。ファランポーン駅は何か北部・東北部へと長距離列車が沢山出ているので駅らしいですがそれ以外の駅は1日に数本しか発車せずに、全く寂れています。

バンコク市内の交通はBTSや地下鉄ができて何とか頑張っていますがタイ国鉄は全くしない交通としては機能していません。広い鉄道敷地をもっているのだから地下鉄並みに列車を走らせれば、十分にバンコク市民の足となれるでしょうに。

駅は南向きですばらしいレトロな趣のある建物です。構内には沢山の人が列車の出発時間を待っています。日本の昭和30年代のような状態です。10本以上あるプラットホームには切符も見せずに簡単に入れます。列車に乗るのも簡単です。列車が発車して検察の時に、初めて切符を見せます。

荷物を席において、留守番を置いて、伴さんとムさんは夕食の買出しに、水野さんと私は飲み物とつまみの買出しに出かけました。出発予定時間6時の10分前には席に戻りました。しかし発車時間の6時を過ぎても出発しません。急行列車でもこの状態です。6時20分になって予告なしでようやく出発しました。

### 寝台列車

タイの国鉄の主力線である北方線はバンコクのファランポーン駅とチェンマイを結んでいます。時刻表によれば、1日に特急から普通列車を含めて、1

1往復しています。そのうち、バンコクとチェンマイを直接結ぶのは6往復しかありません。さらにそのうちの2本は昼間に走り、夜行列車は4往復だけです。

バンコクからチェンマイへ向かった列車はバンコク18時発の特急1号です。チェンマイへ朝の7時15分に到着予定のタイ国での最高列車です。その中の二等寝台車に乗りました。一等寝台は個室ですが、二等は1室が上下2段のベッドになっています。出発時にはまだ座席です。親切にも下段ばかりを取ってくれました。上段は下段より90パーツ(330円)ほど安いのですが、ベッドの幅が30cmほど狭いのです。

食堂車も付いていますし、座席での注文もできますが、高い値段ですので夕食を買い入れて、列車に乗り込みます。困ったことに、特急1号は全車両冷

房付ですので、禁煙になっています。でも安心しました。検札に来た車掌に煙草が吸いたいと言ったら親切にも、トイレは冷房になっていなくて、「窓の開閉ができます」と教えてくれました。喫煙をどうぞと教えてくれたのです。

列車内には、車掌の外に、ベッドメイクをしてくれる人、鉄道公安官でなく鉄道警察、食堂車の注文をとって配達してくれるボーイさんなど、役割分担がはっきりした多くの人が乗り込んでいます。さらに食事などを販売に来る人も途中駅で乗り込んだり、降りたりします。

予定時刻の6時になっても列車は動きそうにありません。20分過ぎてから前触れもなく発車しました。これぐらいの遅れが日常茶飯事なのだそうです。日本とは違います。

## お知らせ

～2009年度夏のワークキャンプ参加者まだまだ募集中！～

今年度もタイ東部サケート県でワークキャンプを行いますので、興味のある方はぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。詳細を知りたい方や参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。

日 程：2009年8月22日(土)～30日(日)9日間

参加費用：53,000円(会費1年分含む)※別途航空券(バンコク往復)が必要

## 運営委員会

(2009年5月～2009年7月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	5月23日	事務所	奨学金授与式、ワークキャンプについて
運営委員会	6月27日	事務所	ワークキャンプについて
運営委員会	7月25日	事務所	授与式報告、ワークキャンプ準備

## 運営委員募集

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は 8月15日(土)13:00～ (事務所にて)です。

## 編集後記

▼ まだまだ嫌な梅雨がが続いていますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？ 私は、名古屋の夏の夜の寝苦しさはどうにも我慢できません。タイでも日中はとても暑いですが、夕方になるとスクールが降り、地面の熱と空気の暑さを取り去ってしますので、夜になるとすごくさわやかになります。ワークキャンプの時などは、夜に暑くて寝苦しいと思ったことは一度もありません。だれか、名古屋の夜の暑さを何とかしてくれないでしょうか。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.46>

発行 キャンヘルプタイランド  
 発行人 西川 弘達  
 編集人 坂 茂樹  
 発行日 2009年7月28日  
 住所 〒450-0003  
 名古屋市名東区名駅南2-11-43  
 NPOステーション内  
 Tel & fax 052-566-5131  
 (OPEN: 毎週火、木・土曜の13～16時頃)  
 E-mail: canhelp@npo-jp.net  
 ホームページ: http://www.canhelp.npo-jp.net